

単為結果性 複合抵抗性 ミニトマト

べにすずめ



ホルモン処理不要
マルハナバチも不要
強健・多収・食味良好

公益財団法人 園芸植物育種研究所

単為結果性・複合抵抗性ミニトマト

べにすずめ

品種特性

- ・単為結果性であり自然着果し、着果ホルモン処理、マルハナバチが不要
- ・葉かび病 (Cf-9)、トマトモザイクウイルス (Tm-2^a型)、萎凋病 (レース1、レース2)、半身萎凋病、斑点病、褐色根腐病、ネコブセンチュウに抵抗性の複合抵抗性品種
- ・糖・酸ともに高く食味良好で、しっかりとした肉質
- ・果実は濃赤色でツヤがある球形果で15~20g、高温期でも揃いもよく豊産
- ・極早生で多収で裂果も少ない (園研品種 ネネ、CF ネネと比較して)

栽培のポイント

- ・標準施肥量 (火山灰土壌・土耕栽培：成分量 kg/10a)
N=10~12 P=30~40 K=15~20 Ca=50~60 堆肥=3 t /10a
- ・定植適期の苗
第1果花房の蕾が米粒大頃の若苗
- ・草勢管理
極早生、多収品種のため、栽培初期から草勢をやや強めに管理
- ・摘果
果数が多い果房は、30~40果に摘果すると、果実の肥大や揃いが良好
- ・追肥
追肥は草勢を見ながら行い、1回あたり窒素成分量で1kg/10aが適量
- ・接ぎ木栽培
台木は、トマトモザイクウイルス抵抗性遺伝子がTm-2またはTm-2^a型をもった品種を使用する。青枯病、根腐萎凋病の発生圃場で接ぎ木栽培が望ましい。

作型 (関東)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
促成	■							○		♀	■	
半促成		■								○		♀
ハウス早熟	○		♀	■								
		○		♀	■							
雨よけ			○		♀	■						
				○		♀	■					
ハウス抑制	■					○	♀	■				
(越冬栽培も含む)	■					○		♀	■			